

宮城・大日南遺跡
だいにちみなみいせき

- 1 所在地 宮城県多賀城市高橋字大日南・門間田
- 2 調査期間 一九九五年（平7）四月～八月
- 3 発掘機関 多賀城市埋蔵文化財調査センター
- 4 調査担当者 武田健市・鈴木孝行・菊池 豊・伊藤 浩
- 5 遺跡の種類 屋敷跡
- 6 遺跡の年代 中世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



（仙 台）

大日南遺跡は特別史跡多賀城跡の南西約2kmに位置し、海拔4m前後の微高地上に立地している。本遺跡では今回の調査を含め計四

度の調査を実施しており、一三世紀～近世初頭にかけての遺構を多数発見している。なかでも一五～一六世紀頃にかけては、一辺四〇mを超える溝で周囲を区画した屋敷跡が微高地上に密集していたことが判明し、同時期の貴重な資料を得る

ことができた。

木簡は、そのような屋敷の内側で検出したSK一〇三土坑から一点出土している。土坑の平面形は円形である。規模は直径三・五m深さ一・一mで、壁は緩やかに立ち上がる。埋土は三層に大別でき、木簡は最下層の粘土層から多数の木片に混じって出土した。木簡以外には、白磁杯（新安海底沈没船引き揚げ品と類似）・青磁碗・北宋銭（元符通宝）・漆器碗・下駄・木錘・曲物・羽口などが出土している。北宋銭と下駄以外はすべて破片である。土坑の年代については、白磁杯の年代から一四世紀以降のものと考えられる。

8 木簡の积文・内容

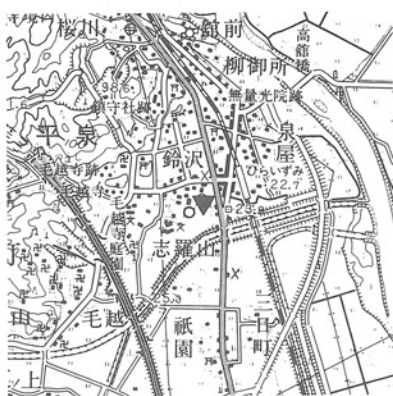
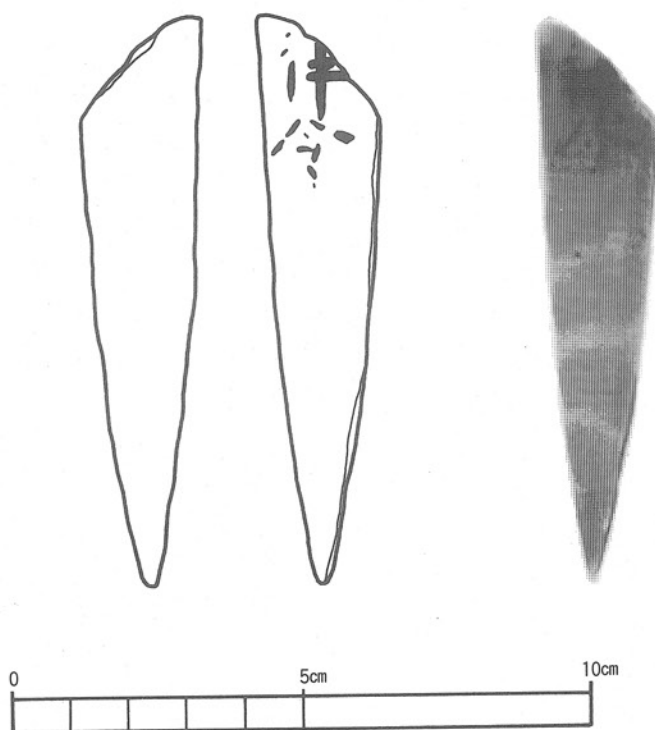
(1) ×律令

(98)×(21)×2 059

木簡の上部は大部分が欠損しているが、「律令」の二文字を肉眼で確認できる。

なおこれ以外にも一五～一六世紀頃の溝から木簡が二点出土しているが、現在調査中である。

（武田健市）



(一 関)

志羅山遺跡は平泉町の中心市街地の南側に位置し、JR東北本線平泉駅の西側三〇〇mの付近を中心として、東西五〇〇m・南北五〇〇mの広がりをもつ遺跡である。平泉は一一世紀末から一二世紀後半にかけての約九〇年間、奥州藤原氏が四代にわたり本拠地とした地域である。当遺跡の周辺には西に特別史跡毛越寺跡・観自在王院跡と倉町遺跡、東に泉屋遺跡、北に花

岩手・志羅山遺跡

- 1 所在地 岩手県西磐井郡平泉町平泉字志羅山
- 2 調査期間 第二次調査 一九九二年(平4) 一二月
- 3 発掘機関 平泉町教育委員会
- 4 調査担当者 菅原計二
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 一二世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要